岩手県総合計画審議会　第４回「人口」検討部会　議事録

日時：平成 25 年 8 月 1 日（木）
13:30～15:30
場所：県庁 6 階　入札室

１　出席者

別紙出席者名簿のとおり。（人口検討部会委員 9 人、事務局 4 人）
なお、一般県民、報道関係者の傍聴はなし。

２　内容

(1)　各委員のお考えについて

資料 1 に基づき、各委員から内容を説明

(2)　「人口」検討部会の提言骨子（素案）について

資料 2、資料 3 に基づき、事務局から内容を説明

○鹿野委員

・人口減少を何とかしたいと現在議論しているが、県内における人口移動と岩手の中と外での人口の移動は区別して話したほうがよいのではないか。
・例えば、通勤時間を短縮できれば、U ターンや I ターンをして、宮古や釜石、久慈に住みたいという人も増えるかもしれないが、盛岡から釜石に移り住んだとしても、岩手の人口は変わらない。他方で、岩手に想いはあるが仕事がないために県外で暮らしていた人が、盛岡まで行く時間が 1 時間になったら帰って来るかもしれない。
・これは、子どもを産み育てる環境について考える場合にも当てはまると思う。小さい子どもがいるから帰りたいが帰れないでいるが、条件が整ったら帰ってくる人もいると思うが、釜石に住んでいても解決できないが盛岡に住めば解決できるという話と、宮城に住もうという話とでは違う。

○浅沼委員

・それは、まとめ方のところに反映させていくということでいいのかと思う。
・交通や集落のあり方の話があったが、僻地が点在していて、それを踏まえてどうしようかという話ではなくて、逆にこうしていくという具体的な話になると思う。
・今のままであれば、奥地に住んでいる方にはこの話は合わない。

○鹿野委員

・全ての話を否定するものではない。都会のすぐ横の田舎であれば、住みたい人が多いであろうから、物理的な距離を縮めることはできなくても交通手段で時間を縮めることができれば、県外から人が入ってくるのではないか。
・議論を岩手の人口を減らさない、増やすというところに統一しないと、具体的な話になったときにかみ合わないことが出てくるのではないか。

○浅沼委員

・たぶん将来像がないからそうなるのだと思う。漠然としていると色々な意見が出るが、ある程度イメージのあるところから考える対策と、ゼロから対策を考えるのとでは違う。

・提言なので、まとめ方によると思う。皆さんの意見をまとめるときの項目立て、あるいは分析視点が、今の要素を入れてくるのか、ある程度 50 年後の岩手の姿をイメージしたうえでまとめるのかによって異なってくる。

○鹿野委員

・ここでどうこうということではないので、座長にお預けする。

○浅沼委員

・9 月 1 日に、岩泉で、オリンピック選手などのトップアスリートが参加する大運動会が開催されるが、トンネルが出来たため、盛岡から往復できるようになった。また、釜石も高速道路が近づいたため日帰りが可能になっており、昔とは状況が違っている。

○工藤委員

・盛岡から宮古はそれなりに行くぞと思って行く距離だが、宮古の人は、盛岡を生活圏だと言っている。ちょっと映画を観たり買い物をしたりするなら盛岡に行こうとか、生活圏としての位置づけになっている。

・ただ、たとえ時間は短縮されたとしても、盛岡まで通勤するとなると、企業が交通費を負担して雇用を進めていくかという問題が現実としてある。

○浅沼委員

・現状では、交通費が高い。時間を縮めて安くなったら人は動くと思う。

○鹿野委員

・公務員、学校の先生は岩手のどこに移動するか分からないので、遠野や花巻、石鳥谷など様々な所に家を建てて結構当たり前に通っている。それはなぜだろうか。そこに何かヒントがあるような気がする。

○工藤委員

・交通費負担のケアがしっかりしているからではないか。

○鹿野委員

・もちろん金銭的なこともあると思うが、長距離通勤をしても住んでいたい街と仕事の魅力の組合せというところにヒントがあるように思う。

○早野委員

・岩泉や宮古の人が盛岡まで生活圏だと言っているだけでなく、盛岡の人も東京は意外と近いと言っている。ただ、東京の人が岩手に来るには思い切りが必要である。

・田舎に行けば行くほど実は生活圏が広い。田舎に住んでいる人は頑張れば通勤するのではないだろうか。

○鹿野委員

・仕事のことを考えなければ、生まれ育った土地に住みたい。盛岡や北上、仙台に行くと、釜石の人によく会う。釜石に住みつつ、物を買うときには大きな街まで行くという人が多い。

○早野委員

・盛岡まで行かなければ用を足せないということを繰り返しているので、ある程度慣れているのかもしれない。時間的に近くなって経済的な負担も減れば理想的になる。

○鹿野委員

・生活と仕事を切り離して考えたときに、どうつなげるのかを考えることも必要であると思う。

○工藤委員

・距離があっても時間的にはすぐだし、お金もそんなにかからないという感覚を、働く側と雇用する側が共通で持てないと、雇用のマッチングはできない。

○鹿野委員

・被災地の有効求人倍率は 1 を超えており、仕事はいっぱいあるが、やりたい仕事がないという状況があるため、そこを考えなければならない。
・地域の中だけで完結するのか、近隣地域を通勤圏にするような広域的な策を考えるのか、という視点が必要である。
・また、地元の事業者として言うと、売り上げが上がらないから高い給料が払えないのか、企業側が儲けていても労働者に対する評価が低いのかは分からないが、新しい価値観の仕事に価値を求めることも必要だと思う。

○工藤委員

・田舎で仕事をしつつ、週に一回だけ盛岡に来るみたいな仕事が増えてくればまた違ってくるかもしれない。

○鹿野委員

・県内のあっちでもこっちでも仕事あるみたいな状況があってもいい。

○工藤委員

・岩手県の中だけの仕事で雇用が生まれるようにすることは難しい。IT 企業が入ってきてもパイの取り合いになるだけで現実的でない。
・私は東京など他の地で仕事を取ってきて、それを盛岡でこなしている。そうした立場から言わせてもらうと、展示会などの単発の支援ではなく、例えば、地元企業が自由に打ち合わせできるシェア会議室みたいなものを県が東京に用意すれば、東京から仕事を持ってきやすくなるか

もしれない。そのような東京から仕事をとってきて外貨を稼ぐ仕組みの支援があってもいい。

○鹿野委員

・私も震災後にあっちこっちに出歩くようになって、釜石から東京の日帰りもしたことがあるが、そうしたこともやればできる。ただ、毎回は難しい。

・場所だけではなくて、県内の企業が例えば販路の開拓を問題に抱えているなら、共同で東京で人を雇えばいい。営業する人を何人か共同で雇って、仕事を持ってくるという方法もある。

○浅沼委員

・地元企業が発展すれば雇用が生まれるという観点からは、東京から仕事を持ってこられるような仕組みを作ったり、県内でも企業の移動を支援したりするような政策が必要である。

○鹿野委員

・人口について考えるならば、企業の利益ではなくて、企業が利益を上げることによって、そこで働く人の生活、環境が向上されるという観点が必要になる。

○浅沼委員

・希望郷岩手をベースに考えていくべきだとの意見があったが、地域のあり方や都市との関係、役割分担などの地域像はすでにあるのか。

○事務局

・みんなで支えあってという理念はあるが、具体的な未来図は用意していない。

・岩手県といっても、それぞれの地域特性に応じた暮らしがあり、地域の課題も様々である。ただ、共通像がないとばらばらになってしまう面もある。これからの部会では、ぜひ踏み込んでいただいて、地域を変えていく始まりになる絵を描くための新しいアプローチをいただければありがたい。

・例えば、道路については、今までは物流のネットワークとして捉えられていたが、今日の議論では生活のネットワークという観点が出てきた。もちろん岩手の場合は命と言う問題があり、これまで病院と道路の整備を一体的に進めてきたということはあるが、今までは経済的な観点から道路の必要性を考えることが多かったし、暮らし・生活のネットワークという視点はあまりなかった。また、沿岸の人たちが盛岡圏も生活エリアとしてみているということなどは、新しい観点の一例だと思うが、そのような踏み込み方がいいと思う。

○佐々木委員

・私は県北の田舎育ちだが、盛岡から地方を見ることと地方から都市を見ることでは違う面があると思う。そのため、調査とまではいかなくても、各地域の特色が分かるようなものがあるとよい。例えば、県北の二戸寄りの人では何か特徴があるかもしれない。

・また、以前、某大学の先生が、第二期アクションプランについて、復興計画との関係が全然見えないと批判する記事が新聞に載った時に、黙って言わせておくのかと言ったことがあったが、総合計画と復興計画をどのように位置づけると考えているか。総合計画に載っているもののう

ち、復興計画にはどのくらい出すといった目安はあるか。

○事務局

・人口移動の状況を広域単位で捉えた基礎データはあるので、提供したい。二戸と久慈の関係などに突っ込んだデータではなく、4 広域の考え方を整理したときの資料であるが、何かの参考になると思う。

・復興との関係はもちろん重要で、底辺では復興との関連の整理はしていかないといけないとは考えているが、一方で、復興関係を盛り込む検討の軸が多くなりすぎてしまう面もある。そのため、復興を視野に入れた検討はあえて入れない方が、考え方の整理として良いかもしれない。

○山口委員

・医師会では震災の後、肋骨対応として、盛岡市紫波区は宮古・山田、花巻北上は釜石、奥州一関は陸前高田大船渡への医療支援を行った。岩手県においては、どうしても盛岡中心になってしまうが、盛岡から肋骨を繋いでということを考えていくのが良いと思う。

・久慈の人が盛岡に行くより八戸に行った方が良いとも言うし、一関の人や陸前高田の人は宮城の方が良いという考えもあると思うが、それを引っ張ってくるには肋骨対応が良いと思う。

○浅沼委員

・今のようなことを入れ込むとしたら、提言骨子（案）の 2 の（2）の前提になるかと思う。横の軸とか、岩手県全般の広いところから考えられる 1 つの連携のようなものを意識した上で、地域力を高めることや繋がりを強くすること、コンパクトに集約していくというような意見を入れていけばと思う。

○菊田委員

・子どもたちを育てやすい社会と言うのは未来の岩手に対する投資だということをどこかに入れていただけると良いと思う。

○山口委員

・子育てについては、小さい子どものみならず、中高生や成人にも当てはまると思う。

・最近、選挙の投票率が下がっている。若い人は選挙に自分が関係ないと言って行かないけれども、その親に選挙に行ったか聞いても暑いから行かないと言う人がいる。若い人に教えてあげることが年長者の役割だと思う。

○鹿野委員

・子どもを産むためには生活の保障や仕事がなければならないが、子どもを産むことへの不安解消や保育所の整備など複合的な話になると思うので、それだけを柱にすることは難しいと思う。

○浅沼委員

・今の意見は 123 の始めの部分に、前文として理念的に盛り込んでいけばいいのではないか。

○鹿野委員

・子育て支援という言葉になると、特定の話に聞こえてしまうので少し砕いて入れ込むと良いと思う。

○浅沼委員

・子どもの育て方や教育、生涯学習の話などを念頭に置いたうえで、順番に話を進めていく必要があると思うが、今の話は最初にすべきことであると思う。

○米澤委員

・人材育成については、子どもたちのみならず、親たちも子育てを通して勉強していかなければならないし、子どもを育てる人たちを育てなければならない。

・また、子どもたちが先生から受ける影響は大きいので、教える側も含めた育成が必要であると思う。今、塾の講師がもてはやされて人気になっているが、何が違うのかを考えると、子どもたちの捉え方や熱意というのが違うのではないか。

○浅沼委員

・持続可能な社会を支えていく人材育成が大切で、自分たちで岩手人を育てていくような環境が必要だということ。提言書は、そうしたことが充実していけば人口減少に歯止めがかかっていくんじゃないかという前提を置きつつ、人だけじゃなくて地域のあり方みたいなものを入れた上で、委員の意見を入れ込んでいくようにまとめて、最後に具体的な提言が入っていくというイメージになるかと思う。

○鹿野委員

・支えられるだけではなくて、一人一人が自立した岩手県民であると自覚がなければならない。ＮＰＯの活動は、元々そういうところが根底にあるので、誰かがやってくれるのを待つのではなく、自分たちも何かをやろうということになるには、自分たちも一員だという意識を持たなければならない。

○浅沼委員

・資料にも書いているが、帰属意識を醸成していく対策も行っていく必要があると思う。

○事務局

・岩手を支え、岩手に生きる岩手の人はこうあるべきだという言い方をするかどうかは別としても、そうしたことを大事にする必要があると思う。

○工藤委員

・昔の当たり前が通用しなくなっている状況もあるが、それでもしっかり教えなければいけない部分もあるので、当たり前をきちんと教える家庭の教育も大事だと思う。

○浅沼委員

・今日の議論は、中途半端になってしまったところもあるが、9 月にまた検討部会があるので、その時にまた皆様からの意見も含めてバージョンアップしつつ、まとめていきたい。

(3) その他

特になし